

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	270500499		
法人名	社会福祉法人勲功会		
事業所名	グループホーム祥光苑		
所在地 (電話番号)	〒037-0092 青森県五所川原市沖飯詰字帯刀378番地 (電話) 0173-39-5080		
評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20-30 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成 20年 11月 6日	評価確定日	平成 20年 12月 24日

【情報提供票より】(平成20年10月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 15年 11月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤	18人, 非常勤 0人, 常勤換算 18人

(2) 建物概要

建物構造	木造造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	3,000 円	その他の経費(月額)	6,000 ~ 冬期7,500 円
敷金	有() 円 (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円 (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 900 円		

(4) 利用者の概要(10月10日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	3 名	要介護2	5 名		
要介護3	6 名	要介護4	4 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84 歳	最低	73 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	白生会胃腸病院、すとうクリニック、中嶋歯科医院
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>ホームの隣には庭木が植えられた広い庭園が整備され、共用空間からも眺めることができる環境にある。家族会行事等も積極的に行われ、活気があるホームである。</p> <p>ISO取得によりマニュアルの整備も充実しており、入居者・家族の満足度を常に念頭に置き、管理者・職員とも一丸となって取り組んでいる。職員体制にもゆとりがあり、ゆったりとした雰囲気が感じられる居心地の良いホームである。</p>
--

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価においては職員全員での取り組みがなされており、外部評価の結果においても、独自の改善シートを用いて職員で話し合い改善に向けて取り組んでいる。日々の暮らしについて個々の家族に対し定期的に報告がなされている。金銭についても家族の要望を聞き合意のもと定期的に報告している。家族会の活動も積極的に行われており、庭園を使用したお食事会なども行われている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>全職員で作成し、日常の業務を振り返りながら気付きも得られている。運営推進会議において報告し、意見を頂きながら改善に向けて取り組んでいる。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議において、自己評価の報告及び外部評価の結果を報告し、意見を吸い上げて職員の話し合いのもとに改善に取り組んでいる。その他にも、ホームの行事や現状の報告、地域との係わり合いについても検討がなされている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11)</p> <p>日頃より家族から意見をいただけるような雰囲気、声かけに配慮するばかりでなく、アンケート調査も定期的に行い、意見を吸い上げる取り組みがなされている。家族等の相談・苦情には対応マニュアルが整備されており、手順に沿って対応や原因究明、その後の評価に及ぶまで話し合いが行われている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>近隣の小学校との交流が深く、学芸発表会に参加したり、日常的に外出の機会を設けている。また、買い物等の野外活動も積極的に企画、実施され地域社会への参加・交流に努めている。</p> <p>職員がキャラバンメイトとして認知症の理解を深めると共に、認知症サポーター養成講座を開催し地域に発信している。</p>

2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員全員にて理念の再検討がなされ、生き活きとその人らしく地域で生活が出来るように取り組みがなされている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	地域に信頼される祥光苑にむけて、管理者・職員が一丸となって取り組んでいる。来客者には全職員で出迎え見送ることが周知徹底されている。		
2. 地域との支えあい					
3	4	隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	近隣の小学校との交流が深く、学芸発表会に参加したり、日常的に外出の機会を設けている。また、買い物等の野外活動も積極的に企画、実施され地域社会への参加・交流に努めている。 職員がキャラバンメイトとして認知症の理解を深めると共に、認知症サポーター養成講座を開催し地域に発信している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>自己評価については、評価の意義を管理者・職員共に理解されており、実際に職員全員で作成されている。外部評価においても、独自の改善シートを作成し検討・改善に取り組んでいる。</p>		
5	6	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2ヶ月に1回の定期的な開催が行われており、自己評価及び外部評価結果についても報告がなされ、意見を業務に反映できるように職員での話し合いも行われている。</p>		
6	7	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>推進会議以外においても、こまめに報告・連絡・相談するなどホームの実情を伝えるとともに連携を保つ努力がなされている。市町村からも、問い合わせや細かいことでも連絡が来るなど関係は良好である。</p>		
7	8	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>事業所として外部研修に積極的に参加し制度理解を深めると共に、研修後の勉強会により全職員への周知、徹底がなされている。</p>		
8	9	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>対応マニュアルを整備して勉強会も行われ、高齢者虐待防止に対する意識付け・制度理解を深め全職員で日常業務に活かしている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居時及び退居時に契約・解約について十分説明されている。入院時には再度家族の意向確認、又、ホームでの受け入れについて十分説明がなされ、書面による同意も取られている。</p>		
10	12	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>金銭の報告は、家族の意向に合わせて期間を決め、同意のもと定期的に報告している。日々の暮らしぶりは、毎月担当者が状況を記入し報告している。急遽受診する際なども随時連絡を行っている。</p>		
11	13	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>日頃より家族から意見をいただけるような雰囲気、声かけに配慮するばかりでなく、アンケート調査も定期的に行い、意見を吸い上げる取り組みがなされている。家族等の相談・苦情には対応マニュアルが整備されており、手順に沿って対応や原因究明、その後の評価に及ぶまで話し合いが行われている。</p>		
12	16	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>管理者は、異動に対しての弊害を十分理解されており、実際に職員異動はない。新規採用者なども馴染みの関係ができるまで1ヶ月程度職員が行動を共にし、ダメージを与えない様に配慮している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
13	17	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員に合わせた外部研修の参加、及び新規採用者には1ヶ月程度職員が付き添う等、個々の職員に合わせた研修が行われている。 日常の業務においても、計画作成担当者が業務上の相談を受けアドバイスするなど、職員間の関係も良好である。また、年に1回、職員全員が自己評価を行い、目標を持って業務に取り組んでいる。		
14	18	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修参加の機会を多くして、同業者との意見交換が出来るように配慮されている。実習受け入れ施設にもなっており、同業者との交流は多く、職員の気付きにも繋がっている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前の見学や事前訪問を行い、生活歴やこれまでの暮らし、本人・家族の意向などセンター方式を用いてアセスメント出来ている。また、新規利用者には職員が間に入って仲介するなど配慮されている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、個々のこれまでの暮らしや趣味を十分アセスメントして得意分野の把握に努め、利用者本位の対応を心がけて実務に当たっている。 ホームの敷地内にある畑において、入居者が先生となり職員と共に作業を行っている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	30	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>アセスメントにはセンター方式を使用し本人の希望・意向の把握に努めている。また、日々の業務の中においても入居者に寄り添い、思いを引き出して都度話し合いが行われている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	33	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>ケアプランには職員全員が関わりを持ち、状況に応じて話し合いが行われている。個々において役割や生活に関する事もケアプランに記載され、日々の業務に活かされている。</p> <p>家族への説明も行われ、意見や要望を引き出し、ケアプランに反映されている。</p>		
19	34	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヶ月に1回の見直しは確実にに行われていると共に、日々の状況記録が細かく記載され、連絡ノート等を活用しながら見直しが行われている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	36	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>受診支援や希望に対しての外出にも柔軟に対応している。家族会の活動も積極的であり、行事が開催され入居者も共に参加されている。</p> <p>遠方から来られるご家族への宿泊にも対応している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居以前からのかかりつけ医を継続している。精神科医の回診など医療面のサポートも充実し、個々にあわせて家族の納得を得ながら対応している。		
22	44	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化、看取りの指針が整備され、勉強会を通じて職員の共通理解が出来るよう取り組んでいる。家族においても十分に説明が行われ、意向確認のもと医師等を含めて検討がなされている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	47	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報に関する基本方針が作られ、それをもとに勉強会が行われており、職員も意識をもちながらプライバシーに配慮し業務に取り組んでいる。		
24	49	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースが守られるように職員配置がなされ、ゆったりしており、利用者のペースに合わせた環境づくりをしている。又、希望に応じて外出するなど個々に合わせた対応をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食事のメニューについては母体施設の管理栄養士が作成した献立を参考にしているが、来訪者の差し入れや畑からの収穫物等によってメニューを適宜変更し、柔軟に対応している。職員の対応もさりげなく行われており、適度に会話をしながら穏やかな雰囲気である。準備・後片付けに入居者も参加されている。</p>		
26	54	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>入居者の要望に応じて、個々に合わせた時間、湯温、回数などを十分に検討し、毎日入浴している利用者もいる。夜間入浴の体制も出来ている。</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>これまでの生活などアセスメントから導きだし、ケアプランにも反映され、入居者は個々に役割を持ち日々の生活を送られている。</p>		
28	58	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>日常的に散歩をするなど、屋内に閉じこもらないように取り組んでいる。入居者の希望により買い物やドライブなど屋外の行事も企画し参加を促している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止に関する指針と身体拘束廃止委員会の活動により、職員は身体拘束の意味、弊害などを理解し、日々の業務に意識をもって取り組んでいる。コミュニケーションにおいても勉強会を開催するなどの取り組みがある。		
30	63	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は入居者の行動を観察し、来訪者に対しても職員全員で出迎えたり見送ったりと対応されている。入居者の状況に応じて共に外出したり、鍵をかける事でのリスク、鍵を掛けないことでのリスクにおいても日々検討がなされ取り組んでいる。		
31	68	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	緊急時・災害時対応マニュアルが作成されており、年2回の防災訓練が行われている。また、防災連絡協議会が住民の協力のもと設立されており体制が出来ている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士により栄養面における点検・検討がなされている。毎日の摂取量が個別に記載され摂取量の把握に努めている。体重測定も行われており変化に応じた対応が検討されている。		
33	75	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染対策に関する指針に沿って、感染対策委員会を設置し、予防や対応への取り組みがなされている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p>					
<p>(1) 居心地のよい環境づくり</p>					
34	78	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共用空間には畳のスペースと椅子のスペースが用意されている。廊下にも共用空間からは視線の届かない場所にソファが設置され、思い思いに過ごせる環境も整備されている。入居者が作成した作品など適度に飾られており季節感も感じられる。</p>		
35	80	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>持ち込み品の制限は無く、それぞれこれまで使用していたものが持ち込まれ、生活感が感じられる。</p>		

 は、重点項目。